

市長記者会見記録

日時：2016年10月17日（月）午後2時00分～2時34分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題

（議題）

1. 成田真由美選手及び山口貴久選手への川崎市特別賞の贈呈について

（市民文化局）

2. 等々力陸上競技場サイド・バックスタンド観客席の一部改修について

（建設緑政局）

（話題提供）

3. 日本最大級のハロウィンイベント「カワサキハロウィン2016」の開催について

（経済労働局）

＜内容＞

＜成田真由美選手及び山口貴久選手への川崎市特別賞の贈呈について＞

司会： それでは、ただいまより市長記者会見を始めます。

本日は、まず議題として2つご説明させていただきます。

初めに、成田真由美選手及び山口貴久選手への川崎市特別賞の贈呈について。

次に、等々力陸上競技場サイド・バックスタンド観客席の一部改修について。

続きまして話題提供として、日本最大級のハロウィンイベント「カワサキハロウィン2016」の開催について、ご説明させていただきます。

なお、議題の2つの事案につきましては、福田市長からの説明後、都度、質疑応答をお受けしますので、よろしく願いいたします。

それでは1つ目の議題について、福田市長、よろしく願いいたします。

市長： よろしく願いします。

先月行われましたリオオリンピック・パラリンピックでは、市にゆかりの選手の皆さんがすばらしい活躍をされました。その中でも、昨年7年ぶりに現役復帰し、今回のパラリンピックで日本新記録やアジア新記録を次々と更新された、水泳の成田真由美選手に市民特別賞、パラリンピックウィルチェアーラグビーで悲願の銅メダルを獲得された山口貴久選手にスポーツ特別賞を贈呈したいと考えております。贈呈は、12月1日に開催いたしますシンポジウム内で行う予定でございます。

司会： ありがとうございます。それでは、ただいまご説明した件につきまして質疑応答をお願いいたします。

幹事社様、よろしくをお願いいたします。

幹事社： では幹事から。

成田選手、山口選手、それぞれスポーツ界にとっても市にとっても非常に貢献度の高い選手だと思うんですけども、市長が市民特別賞とスポーツ特別賞というものを贈呈するに当たって、お二人の活躍ぶりで一番印象に残ったようなことがあれば、改めてお聞かせください。

市長： 山口選手についてはメダリストということでありますけれども、成田真由美さんは、これまでもメダルを15個という大記録を持っているパラリンピアンであります。リオに送り出す際に、今回メダルはというふうな話をしましたら、やっぱりクラスが今回は変更になっているのでメダルは厳しいんですけども、しかし頑張ると言っておられました。

僕は、7年ぶりに現役復帰されて、今申し上げたように日本の新、アジアの新を次々更新されるというこの姿に、ある意味メダル以上の感動がありましたし、市民に大きな勇気を与えていただいたんじゃないかなと。そのチャレンジスピリットに心から敬意を表したいと思っております。

幹事社： 山口さんにも一言。

市長： そうですね。山口さんも今回初のパラリンピックということでありますけれども、ローポインターという、何というんですか、区分というかなんですけれども、その中でも非常に活躍が目立っていて、私もニュースなんかで映るその活躍ぶり、コート内の山口さんの姿を見て、ほんとうにすばらしい活躍ぶりに、ほんとうに感動しました。

特にこれまでも、いわゆるかわさきパラムーブメントに非常に協力していただいて、障害者スポーツのときにはさまざまな形でご協力をいただいております。ぜひこういった形で、これからも、かわさきパラムーブメントにご協力いただきたいなと思っております。

幹事社： ちょっと細かい話なんですけど、この川崎市市民特別賞、あと川崎市スポーツ特別賞ですか、これはこれまでも出されているんですか。幾つぐらい……、何人目。

市長： スポーツ特別賞はこれまでも出ておりますけれども、川崎市市民特別賞というのは今回が初めてということになります。成田さんは数々の市の賞をこれまでに

も受賞されておりますが、いわゆる川崎市の文化賞というのは、この前発表させていただいたとおり審査員の議を経てということになるんですが、特別賞に関しては議を経ずに市長が決定できるということになっておりまして、それで市民特別賞という形で贈呈させていただきました。

幹事社： これは、要するにスポーツの分野で特に活躍のあった人。

市長： それはスポーツ特別賞ですね。

幹事社： あっ、そっちはですね。

市長： はい。で、いわゆる成田さんの市民特別賞というのは、スポーツということだけに限らず、極めて顕著な活動があったということに対する表彰でございます。

幹事社： わかりました。

川崎市スポーツ特別賞は、これで何人目なんですか。

市長： スポーツ特別賞は平成17年度に創設されてまして、これまでに10団体、それから12個人に出されておりました、山口選手で23人目の受賞者になります。

幹事社： ありがとうございます。

では、各社どうぞ。

記者： 今の川崎市市民特別賞なんですが、これって、もう一回確認ですけど、文化とかいろいろなもの、スポーツとかを含めて初めて差し上げる賞なんですか。

市長： はい、そうです。

記者： わかりました。

記者： よろしいですか、今の関連で、市民特別賞、スポーツに限らず顕著な活動とおっしゃいましたが、スポーツに限らない「顕著な活動」の部分って、成田さんで言うと、どういったところに当たるのでしょうか。

市長： 先ほど申し上げたとおり、いわゆるメダリストということにはなりませんでしたが、ある意味それ以上の活躍があったのではないかというふうに考えております。

記者： あと、これまで成田さんは市の賞を幾つか受賞されていると。ほかにはどんなものが。

市長： 数々受賞されておりました、申し上げます。平成7年のときにスポーツ賞をとられております。アトランタパラリンピックでは市民栄誉賞、シドニーパラリンピックでは市民栄誉特別賞、それから2004年のアテネパラリンピックでは市民栄誉特別賞を受賞されております。アトランタ、シドニー、アテネと、いずれもメダルを獲得されているということです。

記者： あと、すみません、もう1点。

12月1日の市主催のシンポジウムというのは、これはパラリンピック関連のシンポジウムということでしょうか。

市長： そうですね。かわさきパラムーブメントに関連するイベントということでございます。

記者： はい、ありがとうございます。

司会： よろしいでしょうか。

《等々力陸上競技場サイド・バックスタンド観客席の一部改修について》

司会： それでは、続きまして2つ目の議題についてご説明いたします。

なお、この2つ目の議題、等々力陸上競技場の件につきましては、この会見終了後、会見室において記者レクを行わせていただきます。記者レクには、川崎フロンターレ、サッカー事業部の長谷川部長にもご同席いただくこととしておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは市長、よろしくお願いいたします。

市長： 等々力陸上競技場のサイド・バックスタンド観客席の一部改修についてご説明をさせていただきたいと思っております。

等々力陸上競技場をホームスタジアムとする川崎フロンターレは、今年、Jリーグチャンピオンシップに出場を既に決めており、初のタイトル獲得に期待が高まるばかりです。また、アジアチャンピオンズリーグ、通称ACLについても出場が見込まれている状況でございます。

こうした中、ACLを主催するアジアサッカー連盟の座席に関する規則の厳格な適用の件につきましては、サイド・バックスタンドの1階席の使用ができなくなってしまう場合、「等々力劇場」といわれる一体感のある応援の雰囲気著しく損なわれるものと私も考えております。

そのため、サイド・バックスタンドの1階を全面的に使用できなくなる状況は避けるため、川崎フロンターレなどの関係団体のご意見を伺いながら、対応策を総合的に検討してまいりました。

特に、現在、競技場の第2期整備の事業評価を行っておりまして、サイド・バックスタンドの整備に向けた基本的な考え方を検討している中で、限られた投資で最大限の効果を得ることを目指し、検討してまいりました。

その結果、現時点でできる限りの対応として、2階の背もたれつきの座席と、1階

の背もたれのない座席を可能な限り交換し、バックスタンド1階の3,782席のうち1,243席を使用可能とすることといたしました。詳しくは配付資料をごらんください。

また、フロンターレサポーターの皆さんから「何か手伝うことができないか」というご意見もいただいておりますので、座席交換の際には、サポーターの皆さんと一緒に何らかの作業ができるように考えております。

私からは以上です。

司会： ありがとうございます。

それでは、ただいまご説明した件につきまして、質疑応答をお願いいたします。幹事社様、よろしくをお願いいたします。

幹事社： 事後レクがあるということで、ざっくりとお伺いしますけれども、これ、費用としてはどれぐらいを見込んでらっしゃるのでしょうか。

市長： これは入札案件になるのであまり詳しいことは申し上げられませんが、新たに設置する場合に比べて大体4分の1ぐらいと想定しておりまして、ざっくり言うとも1,000万円は切るという形で考えております。あまり詳しいことは申し上げられないですが。

幹事社： わかりました。

あと、前回の会見でも非常に悩ましい状況だという、難解な連立方程式を解くような旨とか、非常に悩まれている様子がよくわかったんですけども、非常に異例の対応だとは思うんですけども、工事が終わったばかりでさらにこういう工事をつけ加えると。けれども、非常に市にとっても貢献しているフロンターレの応援になるというプラス面もあるし、例えば、ほかの競技団体から言うと、予算があるならもうちょっとほかにも回してほしいとか、いろいろなものを勘案しなきゃいけないお立場の中でこういった結論を出されたと思うんですけども、改めて、今回のこういう暫定的というか、こういう結論に至った経緯というか、市長のお考えをもう一度改めて。

市長： そうですね。

幹事社： どういうものを勘案しながらこういう結論を導かれたのかということをお聞かせいただければ。

市長： ちょっと繰り返しになっちゃうかもしれませんが、今、2期整備の事業評価をやっている段階で、多額の投資をすることはできないと、要するに二重投資になってしまうというのはこの前の会見でも申し上げたんですが、そういうことにならないようにということを考えてきました。

一方で、せっかくACLの出場が見込まれる中で、繰り返しになってしまいますけど、あの雰囲気というのはサポーターにとっても、あるいは僕にも、フロンターレを応援する市民の皆さんにとっても非常に残念なことで、全く使えないという状況は何とか阻止しなければならないなという中で、できる限り早くこの問題を解決しないと実際のACLにも間に合わないということになりますし、そういったことを総合的に勘案したときに職員の中からこういったいい知恵が出てきたということでありまして、そういう意味ではフロンターレさん、あるいはサポーターの皆さんにもご理解いただけるのではないかなと思っております。

幹事社： 市民にはどうですかね、理解を得られるというか。

市長： ほんとうに必要最低限の予算だというふうにご理解いただけるのではないかなと思いますが。

幹事社： わかりました。

市長： はい。

幹事社： では、どうぞ。

記者： 今回のこの改修は、大体どのぐらいのスケジュール感で、少なくともいつぐらいまでに終わらせたいという計画でしょうか。

市長： 詳しいスケジュール感については、後ほどの事務方のレクからでもよろしいでしょうか。

記者： わかりました。

市長： 今、答えちゃったほうがいいですか。

記者： はい。

市長： じゃあ今、少し、ざっくり。

建設緑政局等々力緑地再編整備室担当課長： 最終的には、1月31日にはひょっとしたら最初の試合があるかもしれませんが、そこまでには工事を終わらせるという予定でおります。

記者： ありがとうございます。

記者： すみません、これって2階と入れかえた場合というのは、2階に背もたれのない席があるということですかよね。

市長： 2階に背もたれが……。

記者： ない席が行くということではない。

市長： 要は、1階席の背もたれのない席と、2階席のところの背もたれのある席を交換する。

記者： 交換するんですよね。そうすると、2階席は結局、規定によってやっぱり使えなくなってしまう。

市長： そうです。

記者： ということですよね。そうすると、ACLは平日にやるみたいなので、そんなにいっぱい人が入るみたいじゃないと思うんですけど、少なくとも、じゃあ、2階席の入れかえた部分についてはやっぱり使えなくなってしまう。

市長： はい。図面を見ていただくとあれなんですけど、2階の最後列ですね。要は、細かい話なんですけど、1階席の背もたれのあるところに設置しているパイプと、その形状が合うのが2階の最後列しかないの、そこをずらっと1列全部交換という、そういうイメージです。

記者： そうすると、じゃあ2階を使えないというか、2階の最後列の部分だけが使えなくなる。

市長： はい。

記者： そうすると、今、大体2万7,000席ぐらいだったと思うんですけども、市長に細かい数字を聞くのも何なんですけど、入れかえることによって大体何人ぐらい収容できるようになりそうなんですかね。

市長： トータルで……、ちょっとよろしいですか。

建設緑政局等々力緑地再編整備室担当課長： バックスタンドが3,782席ございまして、こちらの約3割、32.9%が交換した1,243席になります。

動かしたほうは、今おっしゃったとおりに入れませんので、そちらは省いてという形になります。

記者： そうすると、トータルで幾つになる……、これはあとで積み上げれば……。はい。わかりました。

司会： よろしいでしょうか。

《日本最大級のハロウィンイベント「カワサキハロウィン2016」の開催について》

司会： それでは、続きまして3つ目の事案、話題提供についてご説明いたします。

市長、改めまして、よろしく願いいたします。

市長： それでは、次に「カワサキハロウィン」につきまして発表させていただきます。

「カワサキハロウィン」は、川崎のまちの魅力と活力を全国に向けて発信することを目的に、川崎駅周辺の商店街、大型商業施設及び川崎市で組織する「カワサキハロ

ウィンプロジェクト委員会」が主催しているイベントです。今年で20回目を迎えまして、日本最大級のハロウィンイベントとして、国内はもちろん、海外まで広く知られるようになりました。

さて、今年度の「カワサキハロウィン」でございますが、さらなる魅力の向上を目指し、例年の取り組みに加えて、注目度の高い新たな取り組みも行っておりますので、ここでイベント内容についてご説明させていただきます。

まず、30日、日曜日に行われる「ハロウィン・パレード」につきまして、例年、パレード当日は大勢の方に川崎駅周辺にお越しいただいております。前回、コースの片側全車線を規制して実施いたしましたが、今年も同様のコースを設定し、参加者及び観客の皆様にとって、より安全性が高く、非常にエキサイティングでダイナミックなパレードになると考えております。

パレードに続いて、「カワサキハロウィン」の特徴の一つであるハイレベルな仮装コンテスト「ハロウィン・アワード」も行われます。

今年も、メイン・パレードと同じ日に『スター・ウォーズ』関連のイベントを実施いたします。

今回の見どころは、映画の世界観をもとに企画され、ダース・ベイダーが率いるエリート部隊、第501大隊と、約150名の仮装者による、最終兵器<デス・スター>の設計図を奪うため、反乱軍の極秘チーム<ログ・ワン>の挑戦を表現するオープニングセレモニー及びパレードが展開される予定となっております。川崎駅前に向けてパレードを実施いたしますので、大きな注目が集まると考えております。

よって、パレードにつきましては、先頭を『スター・ウォーズ』が行い、最後を「カワサキハロウィン」のポスターにも掲載されております、リオオリンピックの閉会式や、マドンナのバックダンサーも務めた、ダンスパフォーマーの「AyaBambi (アヤバンビ)」さんが、パレードを大いに盛り上げてくれます。

なお、「ハロウィン・アワード」と「スター・ウォーズ・オープニングセレモニー」では、私も仮装をして参加をいたします。

29日、土曜日に行われる「キッズ・パレード」ですけれども、毎年大好評のため、参加者募集開始後数日間で定員に達してしまうことから、新たに「ハロウィン・キッズ・タウン・ツアー」を開催いたします。ラゾーナ川崎プラザ、ルーファ広場をスタートいたしまして、川崎駅周辺に散りばめられたタウンポイントを回って、ハロウィンにちなんだ景品をゲットできる企画です。多くのお子様と保護者の、かわいらしい仮装イベントになると考えております。

今回より、「ハロウィン・パレード」及び「キッズ・パレード」において、新たな試みといたしまして、車椅子の方々への対応をスタートいたします。本市がまちづくりのコンセプトとして掲げる「かわさきパラムーブメント」の考え方を「カワサキハロウィン」に取り入れて、車椅子利用者にパレードに参加してもらえるように受け入れ体制を整えるなど、さらに多くの皆様に楽しんでいただける「カワサキハロウィン」を目指してまいります。

また、地域と連携した取り組みをご紹介します。本市と包括協定を提携しておりますNPO法人ピープルデザイン研究所による「ピープルデザイン川崎プロジェクト」として、「キッズ・パレード」の際に市内障害者関連施設の利用者の方々を含めて、お手伝いスタッフを配置していただき、参加者や来場者のサポートをしていただく予定でございます。

さらに、まちをきれいにするNPO法人グリーンバードの協力のもと、清掃活動を積極的に展開いたします。「キッズ・パレード」や「ハロウィン・パレード」における、パレード最後尾での清掃活動に加えて、31日月曜日、川崎駅周辺大型商業施設10店舗が中心となり、まちの清掃活動イベントを行います。

その他の取り組みといたしまして、交通局と四谷小学校の児童により「ハロウィン装飾バス」を作製し、23日から28日までの間、そのバスを通常運行に使用する企画や、29日及び30日にはバスの展示・無料運行を行うなど、さまざまな企画を実施いたします。

市役所第3庁舎では、20周年を記念して新たにゲート型の巨大バルーンを、本日17日から31日まで設置しております。

また、麻生区早野地区で栽培された巨大カボチャを活用して、ハロウィンイベント開催中にチネチッタ通りに展示されます。

毎年、「ハロウィン・パレード」が盛大に行われております。それに伴い、30日日曜日の13時30分から16時15分ごろまでは交通規制が行われ、川崎駅周辺におきまして混雑が予想されております。ドライバーの皆様にはご迷惑をおかけすると思いますが、迂回ルートなどを利用するようご協力をお願いいたします。

「ハロウィンといえば川崎」と言われるぐらい大きなイベントになりました。今では全国各地でハロウィンイベントが行われるようになりましたが、行政も含め、地域が一体となって実施しているのが「カワサキハロウィン」の大きな特徴だと思いますので、今後も地域の皆様とともにこのイベントを盛り上げていきたいと考えております。

説明は以上です。質問があればよろしくお願ひします。

司会： ありがとうございます。

それでは、市政一般とあわせまして質疑応答をお願いいたします。幹事社様、よろしくお願ひします。

幹事社： ではハロウィンについて。これは日本最大級ということなんですが、参加者って大体例年どのぐらいで、今年はどのぐらいを見込んでいるというのはあるんですか。

市長： まず観覧者という意味では、去年は約12万人です。

幹事社： これは30日の1日だけでということですね。

市長： はい、パレードのときですね。

仮装は、これは提出制になっておりまして……、ああ、ごめんなさい。

経済労働局商業振興課商業振興係長： 2,500人。

市長： 2,500人ということでございます。

幹事社： これは今年の見込みということ。去年。

市長： 今年も2,500人のところで枠が切っておりまして、そこにご応募いただいた方にご参加いただくということです。

幹事社： 観覧者も、大体12万人ぐらいを見込んでいるんですね。

市長： そうですね。

幹事社： わかりました。

これ、ちょっと改めてになりますが、20年目という節目で、長くやって、当初はこんなに盛り上がるとは思わなかったなんて言う方もいらっしゃるんですけど、非常に立派なイベントになって、市にとっても貴重な財産だと思うんですけども、改めて、市にとってどういうイベントなのかという、また、この20年間を振り返ってみてどんなふうな印象を持っておられるか、所感を聞かせてください。

市長： 最初にやり始めたときは、ほんとうに小さく始まって、まだ日本にハロウィンというものがあまり知られていない時期から始まって、それがだんだん大きくなって、地元の人たち、商店街をはじめ周辺の、いわゆる大型の商業施設や地域の皆さんと一緒にあって作りあげてきた。そういうことで、やっぱり継続は力なりで、今となっては川崎といえばハロウィンというか、ハロウィンの時期になると非常に川崎のことが意識されるというか、去年もテレビや新聞等々、いろんなメディアで取り上げていただいて、川崎の、ある意味風物詩になっていると思いますので、川崎のソフトコンテンツというか、そういう意味では非常に大切なものになっているというふうに

思います。

幹事社： ちなみに市長は、去年も『スター・ウォーズ』で、今年もですか。

市長： 今年も『スター・ウォーズ』。

幹事社： ダース・ベイダーで。

市長： それは悪者のほうですよ。もうちょっといい者になると思うんですけど、何か……。

幹事社： 去年は何をされてましたっけ。

市長： 去年はジェダイだったんですけど、今年は何だか、まだオープンになっていないということです。

幹事社： わかりました。

《小児医療費助成条例の改正議案の可決について》

幹事社： じゃあ、市政一般のほうに。

市長： はい。

幹事社： 市議会の第3回定例会がさっき閉会して、市長が公約で掲げていた小児医療費の小学6年生までの助成拡大というのが賛成多数で可決されて、いよいよ公約の1つが実現に向かったということだと思うんですけども、改めて、市長選で掲げた公約が達成したことでのご所感をまず1点。

あと、まとめてお聞きしますけれども、市長選では無料化ということ掲げていて、結果として選挙で無料化を訴えてしまった反省というんでしょうか、この市議会の議論なんかを踏まえて、その辺に反省があればそれをお聞きしたいのと、あとは、市議会で可決するに当たって、今後の財政状況を見て、一部負担金で見込んでいた1億5,000万円はなるべく負担がないような形で見直せないかという附帯決議がついていと思うんですけども、こういった附帯決議、市議会が求めていることに対してどういうふうに取り組まれていくのか。この3点についてお願いします。

市長： はい。私も公約に掲げて、また市民の皆さんも非常に関心の大きいテーマだと思いますので、まずは小学校6年生までという形で助成が拡大できたことはよかったと思いますし、私がよかったというよりも、そういったサービスが提供できるということが非常によかったというふうには思います。

一方で、ご指摘のとおり私の公約の一部変更となっておりますので、そこについてはしっかりと説明していかなくてはいけないと思います。ただ、一部負担金をとるということが、この前もお話ししておりますが、負担が増えるような誤解をされてしま

うと非常におかしな話になりますので、むしろ、それはぜひ私も説明したいと思いま
すし、ぜひ報道機関の皆様には、そのあたりをしっかりとお伝えいただければ大変あ
りがたく思います。

選挙当時もそうですし、しばらくというか、一部負担金をとるという話は当初から
考えていた話では全くなく、制度をやっていく上で、これは一定の負担をいただいた
ほうが良いというふうに私なりに考えを変えてきたということがあります。そのこと
も含めてしっかりと今後も説明していかなくてはならないと思いますし、その中で、
今回の議会の中でも委員会等で質疑があったと思いますが、これは、財政がよくなっ
たからどうのこうのという話ではございませんというものの考え方で一部負担金をお
願いしているということではありませんので、そのことも含めて、制度の話をしっか
りと説明していかねばならないなど、ご理解をいただく必要があると思っていま
す。いずれにしても、議会のご理解をいただけてよかったとは思っております。

幹事社： わかりました。

《春日山部屋について》

幹事社： あと、市政とは離れてしまうんですけれども、川崎にある相撲部屋のお話
がありまして、聞いたところによると後援会とか、今日は市議会でも有志で署名を行
ったり、商工会議所も有志で集めて、本日の夕方に相撲協会に嘆願書を提出するとい
うような。嘆願書の中身というのはご存じかと思うんですけれども、親方の辞任勧
告の撤回を求めて、川崎に相撲部屋を存続してほしいという願いを込めたものだと思
うんですけれども、こういったものに関して、市長はこの問題についてどういうふう
な感じで受けとめられていて、ちょっと、話が違ってたらあれですが、市長も何か署
名をされたんじゃないかと言う人もいたんですけれども、その辺の、どういうふうに
この問題を受けとめておられるのかをお聞かせください。

市長： まず、春日山部屋については、これまでも川崎に大きな地域貢献を、いろい
ろな機会を通じてやっていただいております、この前の熊本地震のときも募金活動
を積極的にやっていただいたり、それをお届けいただいたり、あるいは子供たちの、
川崎はやはり小学校から大学まで、都市部にありながらも相撲が非常に活発に行われ
ているところでもありますので、そういった意味でも、人材育成の点からもいろいろな
ご貢献をいただいております。

そういった意味で、部屋が川崎にあるということの意義は大変大きなものがある
と思っておりますので、そのことについて要望書という形で相撲協会の理事長宛てに要望書を

本日提出するという形で、書面でもって提出させていただきました。

幹事社： それは、市長として出されるということですか。

市長： はい。そうです。

幹事社： ああ、特に何かの署名に協力したんじゃないかと。

市長： じゃないです。

幹事社： 川崎市長として。

市長： はい。

幹事社： これ、あとでその文面とかそういったものって。

市長： ああ、そうですね。今日3時ぐらいにお届けするというふうに、菊地副市長が行っておりますので、その文面についてはまた提供させていただきたいと思います。

幹事社： わかりました。

では、各社どうぞ。

《臨時福祉給付金に関する事務ミスについて》

記者： 市の事務方絡みのミスが、やはり先週も出てしまいました。臨時福祉給付金の件だったんですけれども、二重払いが起きたということで、金額自体は小さく、件数も小さいので、速やかに事態は解決するのかなと思うんですけれども、やはり、なかなかミスがとまらないという現状があると思います。

毎回聞いているんですけれども、この現状をどう受けとめているのか、どうしてこういうことが起きているのか、あと、再発防止に向けて何か抜本的な解決策などお考えであれば、教えてください。

市長： 今回の、今ご指摘の件につきましては、委託業者のミスということでありませぬけれども、しかし、委託元は私どもでありますから、そういう責任はあると思いません。

ただ、今回の件に当たっては、処理的なものについてはこの委託業者のミスというふうに私は報告を聞いておまして、これまでの一連のものとはやや性質が異なるのではないかと思います。

いずれにしても、市民の皆様にご迷惑をおかけしたことには間違いありませんので、おわびを申し上げたいと思います。

記者： その業者ですけれども、臨時福祉給付金に関しては今回を含めて計3回契約を取っているというふうに聞いています。前の2回分について、実はミスがなかったかどうか再度確認するというようなお考えはないでしょうか。

市長： そういふのは確認したいと思ひます。

記者： 確認するということによろしいですね。

市長： はい。

記者： わかりました。

司会： よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355